

# はくさん

謹賀新年

第104号 H30年正月号  
伊豆市 法住寺 発行



今年 大洋は中学卒業 采海は中3です

年が明けて歳を重ねるごとに健康が気になっ

てきます。新聞等のサプリメント広告の多いこと、あれもこれもと飲んでみたくなったりします。テレビ等も、

の対処法はナニナニとか、その病気の原因はソレソレだからアレコレに気をつけて等々、大変な健康ブームと云った感じです。

\*

## 「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。  
社会の皆さん ありがとうございます。  
ご先祖さま、家族の皆さん

合掌

合掌

健康は誰もが願うこと、自分なりに健康に気をつけ、日々愉快に過ごしてまいりましょう。たとえ歳と共に足腰が痛くなったり、ベツトに伏すことになったりしても、柔軟に今ある自分を認め、大自然の営みの中で命を頂いていることを想い、ありがたく生きてまいりましょう。

何時も皆さんと拝読する欲令衆に『諸仏世尊は衆生をして 仏知見を開かしめ…と 欲するがゆえに世に出現したもう』とあります。仏知見とは仏さまの種子、仏性とも云っても良いと思います。

私たちの中に、仏さまになることが出来る種子・仏性を持っていると云うのです。こんな悪いことだらけ、無責任だらけの私でも？世間で悪人と呼ばれる様な人でも？ 仏性はあるのです。そのことに気づいてもらう為に、何としても人々を救いたいと仏さまは遙か遠

い国からこの世にお出

ましになられたのです。

『貴方の中に仏性があることに気づいてください。その仏性を少しでも磨いてください。』

磨くほどに貴方は輝きを増し、自分自身のことが良く観えるようになります。すると私(仏さま)のように安らいで心豊かに日々を過ごせるようになりますよ』と私たちに語りかけ教えて下さっています。

\*

仏性をどのように磨いたら良いのか、誰もが出来る磨き方を求め、日蓮聖人は大変な勉強修行されました。何としても人々を救いたいという仏さまに、日蓮が成り代わって今の世の人々をお救いしますと誓ったのです。そしてついに『いかようにしてか磨くべきだ南無妙法蓮華経と唱えたてまつるを 是を磨くとは云えり(一生成仏鈔)』と、簡潔明瞭にお示して下さったのです。

お題目を一心にお唱えし、家族を慈しみ、周りの人々を思い遣り敬意と感謝を持ち続け、今ある自分を素直に認めていきなさいと、示して下さいたのです。

\*

健康に留意しながら、健康だけに留まるところなく、仏性を磨き深く慈しんで歩んでまいりましょう。たとえ体が思うように動かなくなったりとしても、磨き続け、歩み続けてまいりましょう。



松本由紀さん作 カワイイ

謹賀新年



## 法住寺護持会

〔総代、護持会長〕伊東修

〔総代、副会長〕小塚健治

〔総代〕森野道雄

〔顧問〕山下一

〔世話人〕伊東徹、三田信子、伊東幸二、

室野千肥路、小塚秀夫、

山下壮一、小塚健治、佐藤諭、

飯田幸雄

〔監査〕土屋正次、佐藤薫

## 中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕山下要

〔顧問〕小塚勝、山下一

〔世話人〕井本まつ、伊東すゑ子、

三田五月、伊東はつ江、伊東ちゑ子

伊東貞子、三田幸子、山崎まち、

伊東通子、伊東ミナヨ、森野一夫、

小塚正司、山下清、小塚貞夫、

小塚康清、山本宏衛、森野はま江、

山下英子、林やす子、佐藤雄一、

佐藤賢吾、佐藤秀夫

## 伊豆連合大題目講(当山)

〔会長、理事〕山下要

## お寺の庭に花いっぱい

ありがたくも私は80歳以上の  
方々と触れ合う時が多くあり、常々

皆さまの笑顔と元気には、私自身が  
励まされもしてきた。たとえば独り  
暮らしの方であっても生き生きとし  
ていて、今の生活を肯定して幸せ感  
を漂わせている方もいる。「それはな  
ぜか」ずっと疑問に思ってきた。す

ると何かテレビで「80歳以上の老人を対象  
にある実験を試してみた」というので興味あつ  
て見ていた。それはざっくり言えば何枚かの  
嫌な写真(戦争とか暗いイメージのもの)と、  
明るく心が落ち着くような写真(花とか子供  
たちの様なもの)とを混ぜこぜにして連続し  
て見てもらい最後に「印象に残っている写真  
はどれでしたか?」とたずねると80歳以上  
の方々の統計では良いイメージのものが圧倒  
的に多かったということでした。このことは  
頭の中の前頭葉資質と云うところが関係して  
いるらしく、たとえば歳を重ねると若い時か  
らの価値観が変化して身体的能力や社会的能  
力は衰えていく一方でも、それを否定的にと  
らえず現状を受け入れて、一つでも自分が出  
来ることをみつけ、今を楽しく生きている。

このようなことを老年的超越というらしいの  
です。「へえ、すごい!! いいなあ」という  
のが私の思いでした。

歳と共に物忘れが多くなり体は衰えるが、  
幸せ感が増える!!というのだ。もつとすごい  
と思えたのは、残された時間を「ありがたい」  
とか感謝をしながら過ごしているという。こ  
れはまさに法華經の教えと重なってくる。

\*

そう言えるのは若い方も含めて、お寺にい  
らして手を合わせてお題目を唱える方々が、  
様々な与えられた中で「小さな喜び、ささや  
かな幸せ」に気づき深く感謝し、時には「大き  
な幸せ、安心」を得ていることを、私に示して  
くれているからです。

今年も微力ではありますがが寺庭として努力  
して参りたいと思います。どうぞ宜しく申し  
上げます。

## 星祭

一月二十八日(日)午後二時

一時三十分水行

節分、立春。旧暦は大自然の営みをよく表し  
ていると感じます。新しい年が善き年であり





仕下さいました。

皆さまのお陰で清々しく新年を迎えることができました。誠にありがとうございます。

## 紅葉、みごと

今年の紅葉も大変に見事で、お寺の紅葉も大したものだと改めて思うのでした。住職になって以来二十数年間、皆さまのお力を頂きながら天城シャクナゲ、モミジ(オオサカズキ、タツタガワ)、サルスベリ、野の花を植樹し続けてきました。新本堂建立前後に植樹したモミジが枝を広げてきたのです。

ると、急に赤や黄色のモミジが飛び込んできて見事な景色でした。第2墓地周辺は元々あったイロハモミジを切らずに残してきたのですが、大きくなって見事に色づきました。先日遠方からお詣りの方が修善寺駅からタクシーに乗り法住寺までと告げると、あのお寺はモミジや野の花がきれいですよと教えてくれ、檀信徒として嬉しかったと話してくれました。一つの景観を創り出すには3、40年是有にかかります。樹齢何百年の古木、大木の中にモミジや野の花が育って、散策のできる様なお寺になってきました。

◎紅葉の景観をカラー写真で

素晴らしい紅葉の様子をお伝えしたいのですが、この寺報はカラー印刷ができません。そこでパソコンをお使いの方はお寺のホームページにアクセスして見てください。

## トピックス

### 境内整備作業、境内清掃

年末の境内作業は元村2、3班のご奉仕で、本堂裏斜面や第2墓地南斜面の雑木を処理して下さいました。雑木を処理すると樹齢何百年かの大木が良い形で姿を現わし、お寺の古い歴史を教えてくれるのでした。

十二日講の皆さんは境内清掃、枯葉や細かい雑草取り等ご奉仕下さいました。

また有志の方々が本堂、書院の掃除をご奉



本堂内陣、ワグスかけてピカピカ



受付玄関、高い所もピカピカ

お寺への坂

道を登ってき  
て山門わきの  
カーブを曲が

## お知らせ

中伊豆立正会大題目

三月三日(土)十時 法住寺

伊豆連合大題目 法住寺

期日は秋の予定です



明けましておめでとうございます。本年が皆さんにとって良き善き年になりますよう願っております。

昨年の私は、「わかってるのに」「わかってるけど」と思いながらも「とりあえず」と懈怠の心に流されてギリギリなっていることがありました。仏さまは「わかっているなら、うしたら」ときつと何度も思っていたことでしょう。その時に動き始めることは、思えばどうという事はないことばかり。今年は「わかってるから、やれることはやれるときに」と余裕のある一年にしていきたいものです。

\*

先日、私の友人の僧侶が遠方よりお詣りがてら遊びに来てくれました。いろいろな体験談をする中でこんなことを話してくれました。

御志納金「十一月・十二月」

横浜 栗竹信広殿 愛妻葬儀

「ある日、自坊の本堂で数人の僧侶とお経をあげさせて頂いていると、僧侶の発したお経が空中を舞っているのが見えたんです。ここ法住寺の本堂でも同じなんです。お題目をお唱えするとそのお題目が浮きあがってくる、発したことが具現化される様でとても不思議な体験をしました」と。

この時私は「観世音菩薩」のことが頭によぎりました。観世音菩薩は、皆さんの聞きなれたところでは「観音さま」と呼ばれていました。音を観る菩薩さまです。観音さまは、皆さんを苦しみや悩みから救い、正しき見方や智慧を授けて下さいます。皆さんが「苦しい、辛い」と声を発すると、その声を聞くより先に、その声を観て救って下さるのです。物理的にも光の方が音よりも早く届きますし、きつと「声が届く頃では遅い、それよりも先に速攻現象であなたを救いたい」と笑顔の奥でおっしゃられているのではないかと感じます。光景は観るもの、音は聞くものという私達の常識を超えた「観世音菩薩」なのです。

その友人は観音さまの如く、言霊が観えたんだと。その友人はきつとこれからも多くの人を支え救うことが出来ることと思います。またそんな僧侶が友人としていて。それだけ

で唯々嬉しく思え、大きな刺激を頂きました。

\*

観音さまが守護して下さる中に七難という七つの難があります。その一つに風難があります。風難とは字の如く風災の難、現代では風評もその一つといえます。現代は沢山の情報が目や耳から入ってきます。ときに迷いや不安の種になる事もあります。「周囲がどう思っている、こう見られないように」など思い過ぎてしまふ、気にし過ぎるのも風難の一つでしょう。その風がまずは吹かないように、例え吹いても風難で真実を見失わない様、皆さんの心が折れることなく柔軟かつ真直ぐに、そして笑顔でありますことを口・身・心で唱えるお題目をもって祈っております。まずは星祭で一緒に祈りましょう。



お寺のホームページ

<http://juro.jp/>

検索「伊豆 法住寺」

スマホ対応 ブログも更新、  
寺報はカラーで掲載です。